

慶應義塾大学

大学院健康マネジメント研究科

看護学専攻

公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

Keio University

Graduate School of Health Management

Major in Nursing

Major in Public Health, Sports and Health Science

2018

～研究科委員長からのメッセージ～

2018年、 健康マネジメント研究科の新しい挑戦が始まります。

2018年4月、健康マネジメント研究科では、看護学専攻と公衆衛生・スポーツ健康科学専攻の2つの専攻による新しい教育・研究体制がスタートします。

5つの学位プログラム(看護学、同専門看護師、公衆衛生学、医療マネジメント学、スポーツマネジメント学)の各分野の最先端で活躍する指導教員の増員、新病棟が完成する大学病院がある信濃町キャンパスでの活動の拡充、経営管理研究科と連携した日本初のMBA-MPHプログラムの開始など、健康、医療、ケアのすべてを包括的に学び、研究することのできる大学院として一層の充実を図っています。後期博士課程では、海外大学院との連携協定に基づく留学プログラム(看護学専攻)や研究副指導教員制度などの国際プログラムがスタートしています。

私たちは、高度な専門性を有する実践力、ビッグデータ時代に必要な分析力に裏付けられた科学的姿勢、軽々と分野を越えて社会変革を生み出すtransboundaryな行動力を涵養するカリキュラムによって、Health in All Policies <すべての政策に健康を考慮する> (2010年、WHOアデレード声明)の時代に求められるグローバル人材の育成を実現します。

『あらゆる人々に健康をもたらし、医療・ケアの質の向上を先導するために』。常に自由な発想と立場で社会を先導してきた慶應義塾ならではの新しい挑戦を続ける健康マネジメント研究科は、志ある皆さんをお待ちしています。



健康マネジメント研究科委員長

武林 亨

概要

	看護学専攻	公衆衛生・スポーツ健康科学専攻
修士課程		
修業年限	2年	2年
入学定員	10人	30人
学位	修士(看護学)	修士(公衆衛生学) 修士(医療マネジメント学) 修士(スポーツマネジメント学)
後期博士課程		
修業年限	3年	3年
入学定員	5人	5人
学位	博士(看護学)	博士(公衆衛生学) 博士(医療マネジメント学) 博士(スポーツマネジメント学)

入学試験

	I期	II期	III期
募集対象	修士課程	修士課程・後期博士課程	修士課程
出願期間	2017年6月7日(水)～6月13日(火)	2017年10月25日(水)～10月31日(火)	2018年1月9日(火)～1月15日(月)
試験日	2017年7月8日(土)	修士課程 2017年11月25日(土) 後期博士課程 2017年11月26日(日)	2018年1月27日(土)
合格発表日	2017年7月13日(木)	2017年11月30日(木)	2018年2月1日(木)
入学手続期間	2017年12月5日(火)～12月11日(月)	2017年12月5日(火)～12月11日(月)	2018年2月8日(木)～2月14日(水)

※出願資格等、試験の詳細については必ず当該年度の募集要項をご確認ください。募集要項は、研究科ホームページで公開しています。
※修士課程について、I期、II期、III期それぞれの募集人員枠は設けていませんが、III期は若干名となります。

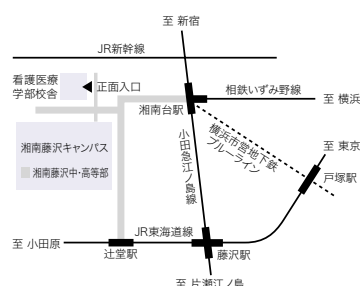
アドミッション・ポリシー

本研究科は、学際的・先進的分野の研究科として教育・研究水準の向上と広がりを目指し、医療系・非医療系の出身学部を問わず多様な背景の学生を幅広く受け入れるとともに、学部の新規卒業者だけでなく実務経験者を含む既卒者も対象としています。そのため、入学者選抜については、入学希望者の本研究科における学習研究への意欲や研究活動の遂行に求められる課題設定能力、論理的思考力、分析力、説明能力等を多面的に評価し判定しています。

キャンパス

■湘南藤沢キャンパス(SFC)

本研究科のメインキャンパス。看護医療学部校舎を拠点としています。図書室、キャレルスペース、個人ロッカー、食堂などの利用が可能です。



■信濃町キャンパス

原則として木曜日と金曜日に授業が行われます。図書館などの利用が可能です。



教員紹介

(2017年4月1日現在)

■看護学専攻

氏名	職位	専門
太田 喜久子	教授	高齢者看護学
金子 仁子	教授	公衆衛生看護学
小松 浩子	教授	がん看護学・緩和ケア、慢性看護
近藤 好枝	教授	新生児看護学、母性看護学・助産学
妹クレイグヒル子	教授	質的研究法、小児看護学
武田 祐子	教授	遺伝看護、急性期看護、がん看護
永田 智子	教授	在宅看護学
野末 聖香	教授	精神看護学、リエゾン精神看護学
宮脇美保子	教授	基礎看護学、看護倫理・看護理論
小池 智子	准教授	看護管理・看護政策
小山友里江	准教授	成人看護学、慢性期看護学・終末期看護学
辻 恵子	准教授	母性看護学・助産学、遺伝看護学
福井 里佳	准教授	基礎看護学、看護教育学
福田 紀子	准教授	精神看護学、リエゾン精神看護
矢ヶ崎 香	准教授	臨床看護(終末期)、がん看護

■公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

氏名	職位	学位プログラム※	専門
秋山 美紀	教授	公衛	ヘルスコミュニケーション、コミュニティヘルス
大谷 俊郎	教授	スポ	スポーツ医学、バイオメカニクス
岡村 智教	教授	公衛	循環器疾患予防、健康教育、地域保健
勝川 史憲	教授	スポ	内分泌代謝学、スポーツ医学
鎌倉 光宏	教授	公衛	感染症、国際保健
河井 啓希	教授	医療	医療経済
権丈 善一	教授	医療	公共政策、社会保障
武林 亨	教授	公衛	疫学・予防医学、産業保健・環境保健
堀田 聡子	教授	医療、公衛	人的資源管理、ケア人材政策、地域包括ケア
前田 正一	教授	医療、公衛	医事法学、医療倫理学、医療安全管理学
宮田 裕章	教授	医療、公衛	ヘルスデータサイエンス、医療の質、医療政策
山内 慶太	教授	医療、公衛	医療マネジメント学、精神保健
渡辺美智子	教授	医療	統計科学、多変量解析
石田 浩之	准教授	スポ	スポーツ医学、運動生理学、老年学
梅津 光弘	准教授	医療	経営倫理、応用倫理学
小熊 祐子	准教授	スポ、公衛	スポーツ医学、運動疫学、健康行動科学
佐野 毅彦	准教授	スポ	スポーツビジネス
橋本 健史	准教授	スポ	スポーツ医学、バイオメカニクス

※公衛：公衆衛生プログラム、医療：医療マネジメントプログラム、スポ：スポーツマネジメントプログラム

■指導教員

修士課程では、1年次春学期終了後、学生の基礎的能力や志向領域を勘案のうえ決定します。

カリキュラム・ポリシー

■学際的教育の重視

多様な背景・専門の学生を受け入れている本研究科は、学生が互いの視点と言語を共有し、活発な議論を通じて切磋琢磨する、協働を通じて学ぶ環境を整えています。それゆえ、特定分野・領域の専門科目だけを履修するのではなく、様々な専門科目を履修することで視野を拡げ、社会の健康水準の向上に貢献できる基礎的能力を培うことを重視しています。

■実務と研究の融合の重視

本研究科では、実務と研究を融合させた教育を重視しています。実践を通じて得られたデータを体系化することで理論を構築し、理論的枠組みを用いて現場の課題解決を図り、さらに現場からフィードバックされたデータをもとに既存理論を検証し修正する、実務と研究が相互に行き来する一連のプロセスを理解するために、本研究科ではインターンシップやプロジェクトへの参加機会が用意されています。

■実証的研究方法の重視

保健・医療・福祉のいずれの領域においても、限られた資源を効率的に活用して効果的な成果をあげるためには、個人や集団を問わず、臨床的な合理性と経済的な合理性の両立が求められます。そのため、本研究科は、勘や経験に頼るのではなく、エビデンスに基づく合理的意思決定に必要とされる実証的な分析手法の修得を重視しています。

後期博士課程

- 3年間の履修を修了すると同時に博士の学位を取得することが原則的に可能なように、研究指導、論文指導が行われます。
- 1年次には特論科目(基礎理論と実証研究の方法論・分析手法を確認する科目)を、在学期間を通して合同演習科目(履修者および学内外の研究者・実務家による研究報告と討議を中心に行う科目)を履修します。
- 他研究科修士課程修了者や、本研究科修士課程修了後しばらくの期間実務に就いていて最新の理論や分析手法等に精通していない者は、指導教員の指示に従い修士課程設置科目を履修することで知識を補完することができます。
- 外国の大学院への留学が許可された場合には、1年間に限り留学期間を在学年数に算入し、修得した授業の単位を「合同演習」の単位として認定することが可能です。
- 毎年度、論文中間審査会にて報告を行います。報告会では、必要な指導・助言を受けると共に、進捗確認・審査を受けます。
- 学位は、後期博士課程に3年以上在学(休学期間を除く)し、所定単位(特論科目4単位、合同演習科目6単位以上の計10単位以上)を修得し、かつ研究上必要な指導を受けたうえで博士論文の審査および最終試験に合格した者に対して授与されます。
- 英語のみでの修了も可能です。

科目一覧(修士課程)

(2018年度開講予定)

導入科目			
健康マネジメント概論	社会保障論	ヘルスケア倫理学	高齢社会デザイン論
臨床入門	経営戦略論		
分析手法科目			
基礎疫学	基礎生物統計学Ⅰ	基礎生物統計学Ⅱ	応用生物統計学
ヘルスアウトカム評価論	ヘルス情報管理論	疫学研究の統計的方法	臨床試験方法論
クオリティマネジメント	サービスデータサイエンス	多変量因果解析	質的研究法
専門科目(看護学専攻)			
母性看護学	母性看護学方法論Ⅰ	母性看護学方法論Ⅱ	母性看護学演習Ⅰ
母性看護学演習Ⅱ	小児看護学	小児看護学方法論Ⅰ	小児看護学方法論Ⅱ
小児看護学演習Ⅰ	小児看護学演習Ⅱ	老年看護論	老年期疾患治療論
高齢者・家族援助論	老年サポートシステム・制度論	高齢者健康生活評価法	老年看護実践演習
認知症高齢者看護演習	老年専門看護実習	基礎看護学	基礎看護技術方法論Ⅰ
基礎看護技術方法論Ⅱ	基礎看護学演習Ⅰ	基礎看護学演習Ⅱ	がん看護論
がん看護援助論	がん治療看護論	がん病態生理学	がん遺伝看護論
がん薬物療法看護論	緩和ケア演習	がん専門看護実習	成人看護学
成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	成人看護学演習Ⅰ	成人看護学演習Ⅱ
精神看護論	精神の健康生活評価法	治療的精神看護介入法	リエゾン精神看護論
精神保健医療福祉制度論	精神科治療技法	精神看護介入演習	精神専門看護実習
在宅看護論	在宅看護方法論Ⅰ	在宅看護方法論Ⅱ	在宅看護学演習Ⅰ
在宅看護学演習Ⅱ	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動方法論Ⅰ	公衆衛生看護活動方法論Ⅱ
公衆衛生看護活動計画・評価論Ⅰ	公衆衛生看護活動計画・評価論Ⅱ	遺伝看護論	遺伝リスク評価法
臨床遺伝特論	遺伝看護対象論	遺伝医療・社会制度論	遺伝看護援助論
遺伝看護展開論	遺伝専門看護実習	看護理論	看護教育論
コンサルテーション論	看護研究	看護情報学	看護倫理
看護政策論	看護管理論	フィジカルアセスメント	臨床病態学
臨床薬理学			
専門科目(公衆衛生・スポーツ健康科学専攻)			
公衆衛生マネジメント	医療政策・管理学	環境・産業保健学	健康行動科学
感染症疫学・サーベイランス	生活習慣病疫学	国際保健学	地域保健学
精神保健学	ヘルスコミュニケーション	ヘルスプロモーション	医療経営戦略論
ヘルスサービス財務管理論	ヘルスサービス経営倫理学	パーソナルケアシステム論	医療経済学Ⅰ
医療経済学Ⅱ	医事法学	リスクマネジメント論	医療経済学
ヘルスビジネス知的財産論	運動生理学	運動疫学	バイオメカニクス・動作解析
健康スポーツ栄養科学	老年医学・高齢者スポーツ医学	健康スポーツ経営論	健康スポーツマーケティング論
インターンシップ関連科目			
公衆衛生実践	健康ビジネス開発論	健康都市デザイン論	病院経営論
居宅サービス経営論	民間保険経営論	製薬産業論	医療機能評価論
運動・体力評価法	健康スポーツプロモーション	健康スポーツ地域デザイン論	健康スポーツ産業論
特別研究科目			
特別研究			
研究科の定める科目			
ヘルスケア情報プラットフォーム	ファーマコメトリクスⅠ	ファーマコメトリクスⅡ	ヘルスケア領域のグローバルアントレプレナーシップ基礎講座

修了要件：2年以上在籍し(休学期間を除く)、所定の授業科目を30単位以上修得し、修士論文または課題研究論文の審査および最終試験に合格すること。

看護学専攻

■人材の養成に関する目的

学際的で豊かな知識と高い倫理性に裏打ちされ、既存の枠組みにとどまらない構想力、複雑かつ先進的な健康課題を包括的に理解するための臨床判断力、Evidence-based practiceおよび理論や概念基盤に基づいた最前のアウトカムをもたらすケア実践能力を修得し、看護ケアの新しいあり方を開発・構築、実践できる人材を養成することを目的としています。

■ディプロマ・ポリシー(看護学)

学際的で豊かな知識と高い倫理性に裏打ちされ、既存の枠組みにとどまらない構想力や研究・教育能力、複雑かつ先進的な健康課題を包括的に理解するための臨床判断能力、Evidence-based practiceおよび理論や概念基盤に基づいた最善のアウトカムをもたらすケア実践能力を修得した者に対して学位を授与します。

■修了生の進路

病院をはじめとした施設、地域における看護上級実践者および管理職、大学等教育・研究機関における教育・研究職が主たる進路となります。

専門看護師(Certified Nurse Specialist : CNS)プログラム

[概要]

CNSプログラムは老年看護分野、がん看護分野、精神看護分野、遺伝看護分野*が置かれており、日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程基準を満たす教育課程として組み立てられています。CNSプログラムでは、修士論文に代わり課題研究論文(CNS実習)を作成することになります。学生は、実習施設と担当教員の緊密な連携のもと実習指導を受けたうえで、実践的研究課題を取り上げ、講義・演習科目で培われた理論知のうえに立ち、CNS実習における実践知をふまえた総体的表現としての研究に取り組みます。

[修了要件]

2年以上在籍し(休学期間を除く)、所定の授業科目を46単位以上修得し、修士論文または課題研究論文の審査および最終試験に合格すること。

※：2018年度設置予定

海外での研修・留学

[海外研修(メイヨクリニック)]

マグネットホスピタルとして名高いメイヨクリニック(米国ミネソタ州ロチェスター)で行われる研修(実習)です。この研修は、CNSプログラムの学生を対象としており専門看護実習の一部として認められます。人数枠の範囲内でCNSプログラム以外の看護学専攻の学生も応募が可能になる場合があります。詳細は入学手続時にお知らせする予定です。

[海外短期留学(ワシントン大学)]

看護学専攻後期博士課程生を対象に、ワシントン大学(米国ワシントン州シアトル)で行われる半年(2学期)間の短期留学プログラムです。ワシントン大学で開講されている博士課程の講義を受けることができ修了証が授与されます。2017年度は秋学期から冬学期(10月初旬～3月下旬)にかけて実施予定です。詳しい募集は入学後に確認できます。

■専門分野の構成

領域	分野	担当
ライフステージケア領域	母性看護分野	近藤好枝、辻恵子
	小児看護分野	戈木クレイグヒル滋子
	老年看護分野 ※1	太田喜久子
クリニカルケア領域	基礎看護分野	宮脇美保子、福井里佳、小池智子 ※2
	成人看護分野	矢ヶ崎香、小山友里江
	精神看護分野 ※1	野末聖香、福田紀子
	がん看護分野 ※1	小松浩子
	遺伝看護分野 ※1 ※3	武田祐子
コミュニティケア領域	在宅看護分野	永田智子
	公衆衛生看護分野	金子仁子

※1：CNSプログラム併設 ※2：2020年度より看護管理分野(仮称)を設置し、学生の募集開始予定。 ※3：2018年度設置予定

■看護学専攻からのメッセージ(看護の魅力)

地球温暖化、災害、感染症、不況、テロなど、社会は今、人々の生存基盤を揺るがす大きな転換点に立っています。健やかに生き、暮らしていくことに対する漠然とした不安や危機感が広がっています。持続可能な未来社会の実現に向け、人々の暮らしを丸ごとケアするすそ野を広げた看護学の発展が、今こそ求められているのです。生物的文脈、生活的文脈、社会的文脈、そして地球環境的文脈から研究者のみならず、利害関係者となる市民と共に関わりつつ目的を創造し、問題解決に向けた知を獲得する新たな研究アプローチの開発が期待されています。健康マネジメント研究科に位置づいている看護学専攻では、公衆衛生・スポーツ健康科学専攻との有機的な教育・研究連携のもと、すそ野を広げた看護学を学ぶことができます。さらに、慶應義塾の世界に広がるネットワークの中で、グローバルな視点から、研究を推進できる環境が整えられています。

世界中の人々が、安心して、健やかに暮らす未来社会の実現には、自分とは異なる状況にある人を理解しようとし、その人の痛みや苦しみに寄り添い、支えるというケアマインドの浸透が必要です。その重要性を専門職者・研究者として社会に根付かせて行きましょう。そのためには、慶應義塾においてさまざまな学問分野の学びや交流を深め、自分を豊かに磨いてください。あなたのチャレンジを応援しています。



健康マネジメント研究科
看護学専攻 教授

小松 浩子

公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

■人材の養成に関する目的

保健・医療・福祉やスポーツに関連した専門的知識の修得にとどまらず、個人や社会が抱える健康課題を見出す洞察力、課題の背後にある構造・因果関係を推定し仮説として構築するための論理的思考力、万人が納得できる方法で仮説を検証するための分析力、導出した結論を共有・実践するためのコミュニケーション力といったマネジメント力を修得させ、多様性・多文化への配慮と高い職業倫理観にもとづいて社会を先導するリーダーシップを醸成することを目的としています。

■ディプロマポリシー

●公衆衛生学

すべての人々の健康と生活の質の維持・向上を目指し、地域から地球規模にまで広がる健康課題の解決を図ることのできる専門的知識・技能と、課題解決に導くコミュニケーションやマネジメントの能力を修得し、多様性への寛容や職業倫理観といった資質を備えていると認められる者に対して学位を授与します。

※公衆衛生学プログラムでは、MPH(修士(公衆衛生学))に求められる国際基準の5つの基盤領域をカバーしたカリキュラムが用意されています。

●医療マネジメント学

保健・医療・福祉機関ならびに関連ビジネスにおいて、これまで以上に質の高いサービスを効率的かつ各個人のニーズを踏まえてきめ細やかに提供するために必要なマネジメントを、研究あるいは企画・実践できる能力を修得した者に対して学位を授与します。

●スポーツマネジメント学

個人や集団の健康の維持・増進に資する知識とビジネスマネジメント技能を統合することによって、健康水準の高い社会のあり方を企画・実践でき、スポーツ文化の振興とスポーツ産業の発展に貢献できる能力を修得した者に対して学位を授与します。

■修了生の進路

病院、介護施設、製薬会社、医療機器製造・流通会社、医療経営コンサルティング会社といった保健・医療・福祉関連団体や、大学、研究機関、シンクタンクといった研究教育機関、国、地方公共団体あるいは国際機関といった公的組織、スポーツ用品製造・流通会社、スポーツ団体(統括団体、クラブ等)、フィットネスサービス会社等のスポーツ関連団体に加え、広告会社、金融機関、保険会社、商社、経営コンサルティング会社、人材サービス会社、ITサービス会社等、卒業後の進路は多岐にわたります。

早期修了制度

修士(公衆衛生学)に限り、保健・医療・福祉の分野で一定の専門性と実務経験を有する者を対象に、早期修了制度を用いて在学1年での学位取得が可能です。なお、修士(公衆衛生学)関連の科目は、信濃町キャンパスで開講されます。

MBA-MPHプログラム

本研究科と本塾経営管理研究科の間で、公衆衛生学教育ならびにビジネス教育のさらなる融合により公衆衛生とビジネスの双方に通じた人材を育成することを目的としてつくられたプログラムで、両研究科のいずれから開始できる双方向性プログラムです。十分な実務経験のある者を対象とし、具体的には、経営管理研究科在籍時に本研究科の科目を上限10単位まで履修できる制度等の活用により、計3年間で修士(公衆衛生学)と修士(経営学)が授与されます。

■モデルカリキュラム

本専攻では、多様な分野の専門家を育成するため、それぞれに適した授業科目から構成されるモデルカリキュラムを構築しています。科目の詳細は、研究科ホームページをご覧ください。

修士(公衆衛生学)

- 疫学・予防医学、生物統計・データサイエンスの専門家を目指すコース
指導教員：岡村智教、鎌倉光宏、武林亨、宮田裕章
- ポピュレーションヘルス(地域、産業、精神保健等)、グローバルヘルスの専門家を目指すコース
指導教員：岡村智教、鎌倉光宏、武林亨、堀田聰子、宮田裕章、秋山美紀、小熊祐子
- ヘルスコミュニケーション、健康行動(身体活動、栄養)の専門家を目指すコース
指導教員：秋山美紀、小熊祐子
- ヘルスケア全般の政策専門家を目指すコース
指導教員：岡村智教、鎌倉光宏、堀田聰子、宮田裕章、山内慶太

修士(医療マネジメント学)

- ヘルスケア領域の組織の経営管理の専門家を目指すコース
指導教員：堀田聰子、前田正一、宮田裕章、山内慶太、渡辺美智子
- 医療・介護サービス等のデータを活用したマネジメントの専門家を目指すコース
指導教員：堀田聰子、前田正一、山内慶太、渡辺美智子
- 医療安全管理、臨床倫理の専門家を目指すコース
指導教員：前田正一

修士(スポーツマネジメント学)

- 健康スポーツ医科学領域の専門家を目指すコース
指導教員：大谷俊郎、勝川史憲、石田浩之、小熊祐子、橋本健史
- スポーツビジネス領域の経営管理の専門家を目指すコース
指導教員：佐野毅彦

Keio University



慶應義塾大学
大学院健康マネジメント研究科ホームページ
<http://gshm.sfc.keio.ac.jp>